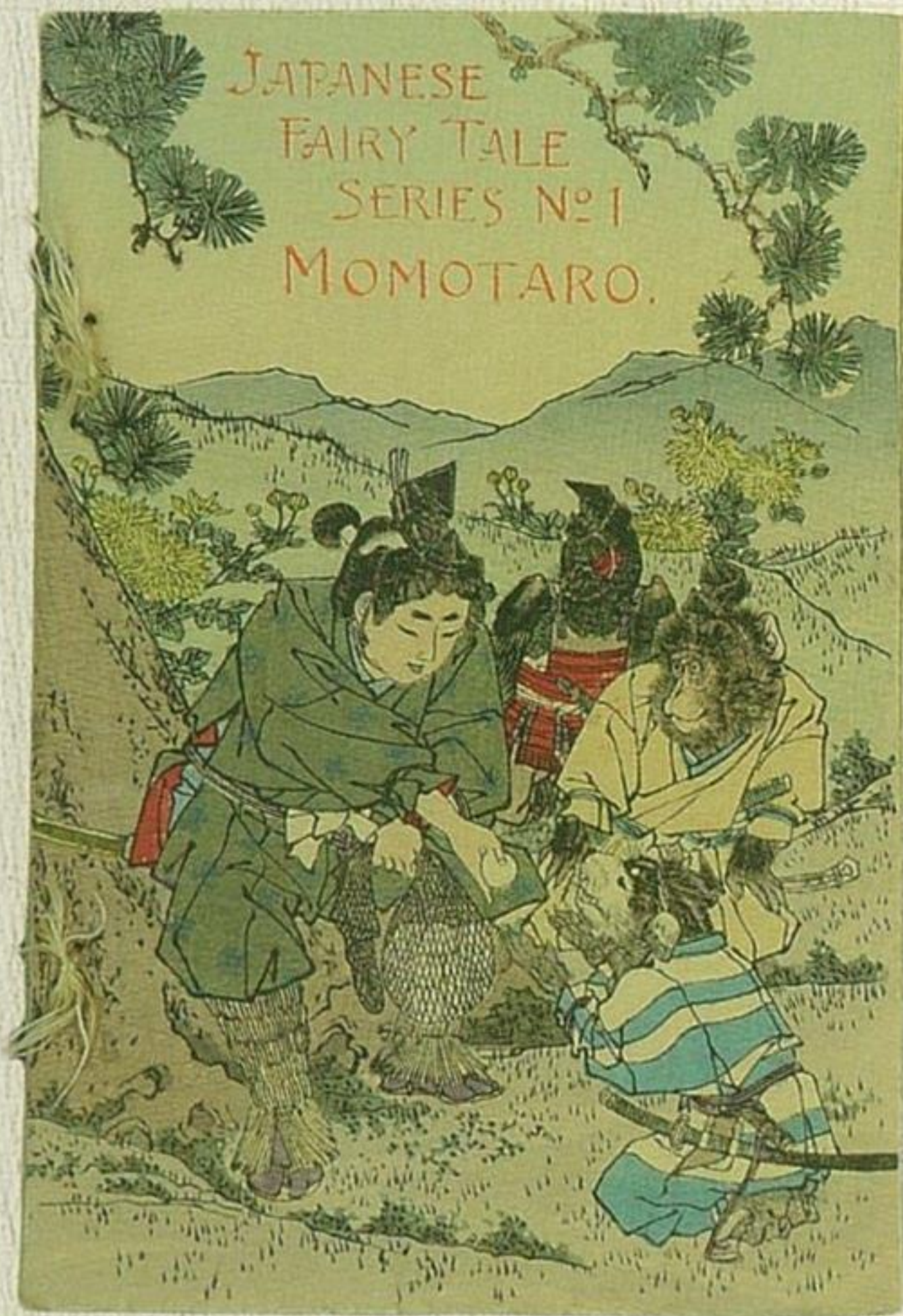


JAPANESE FAIRY TALE SERIES

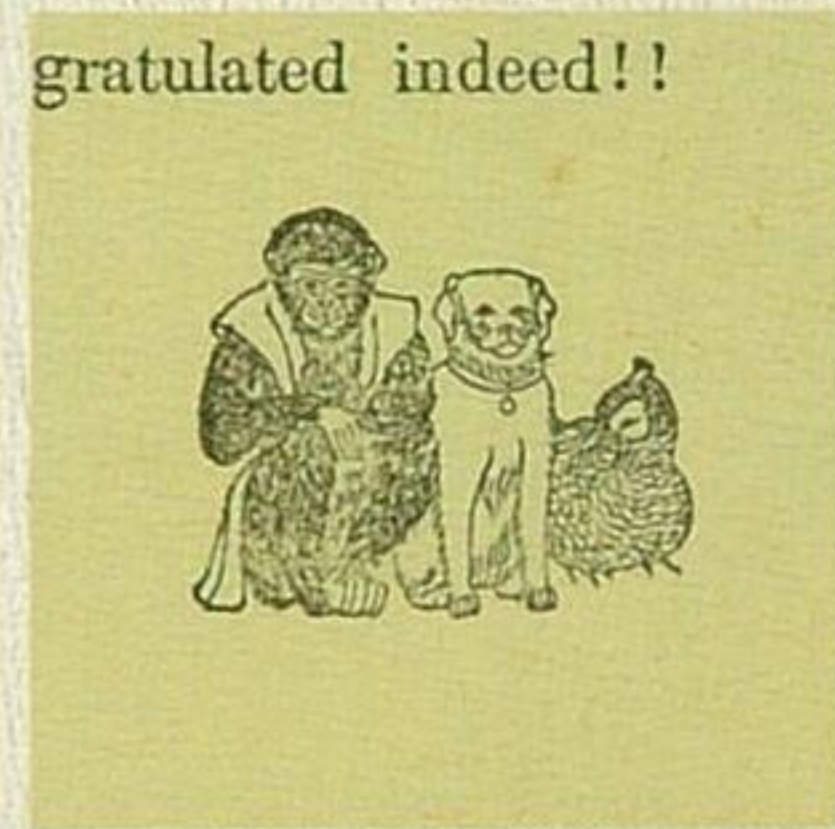
No.1 MOMOTARO 桃太郎

David Thomson / 訳 小林永濯 / 絵 明治19年(1886)再版 15.4×10.3cm

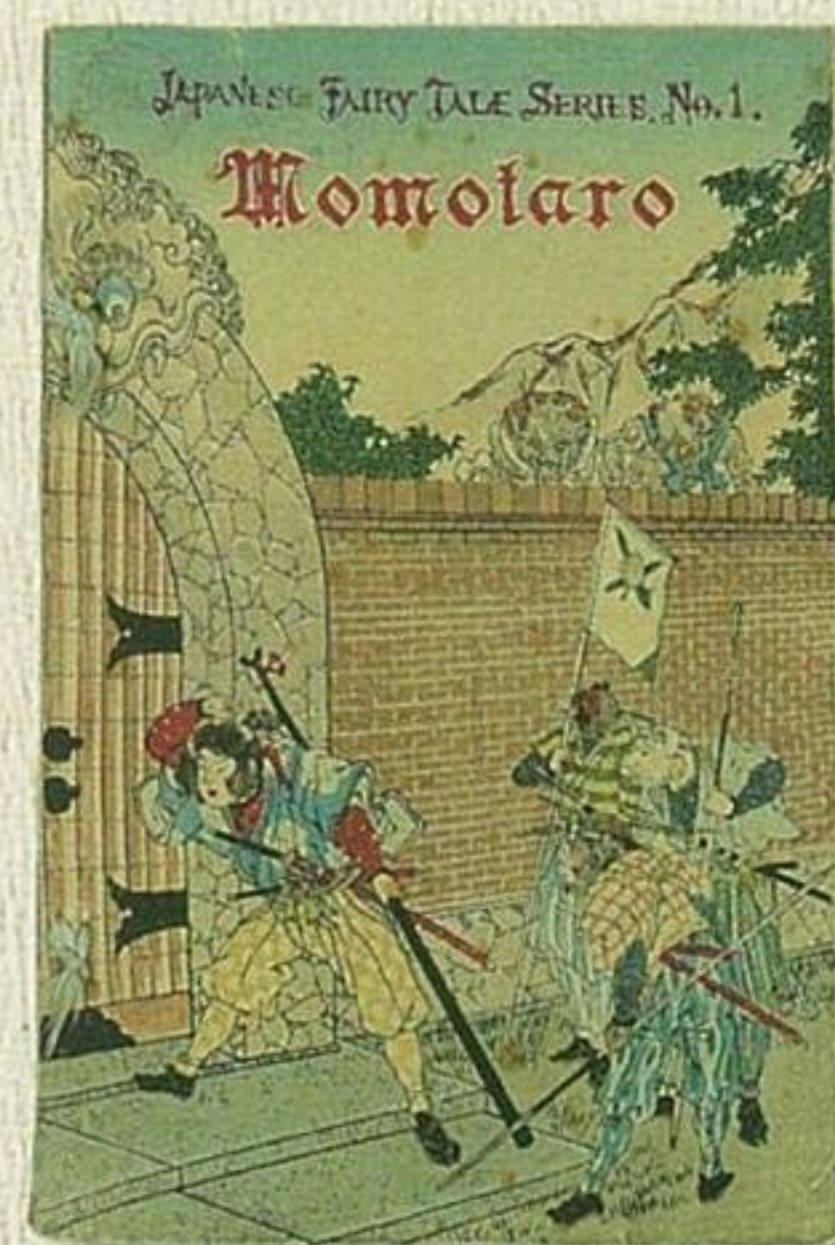
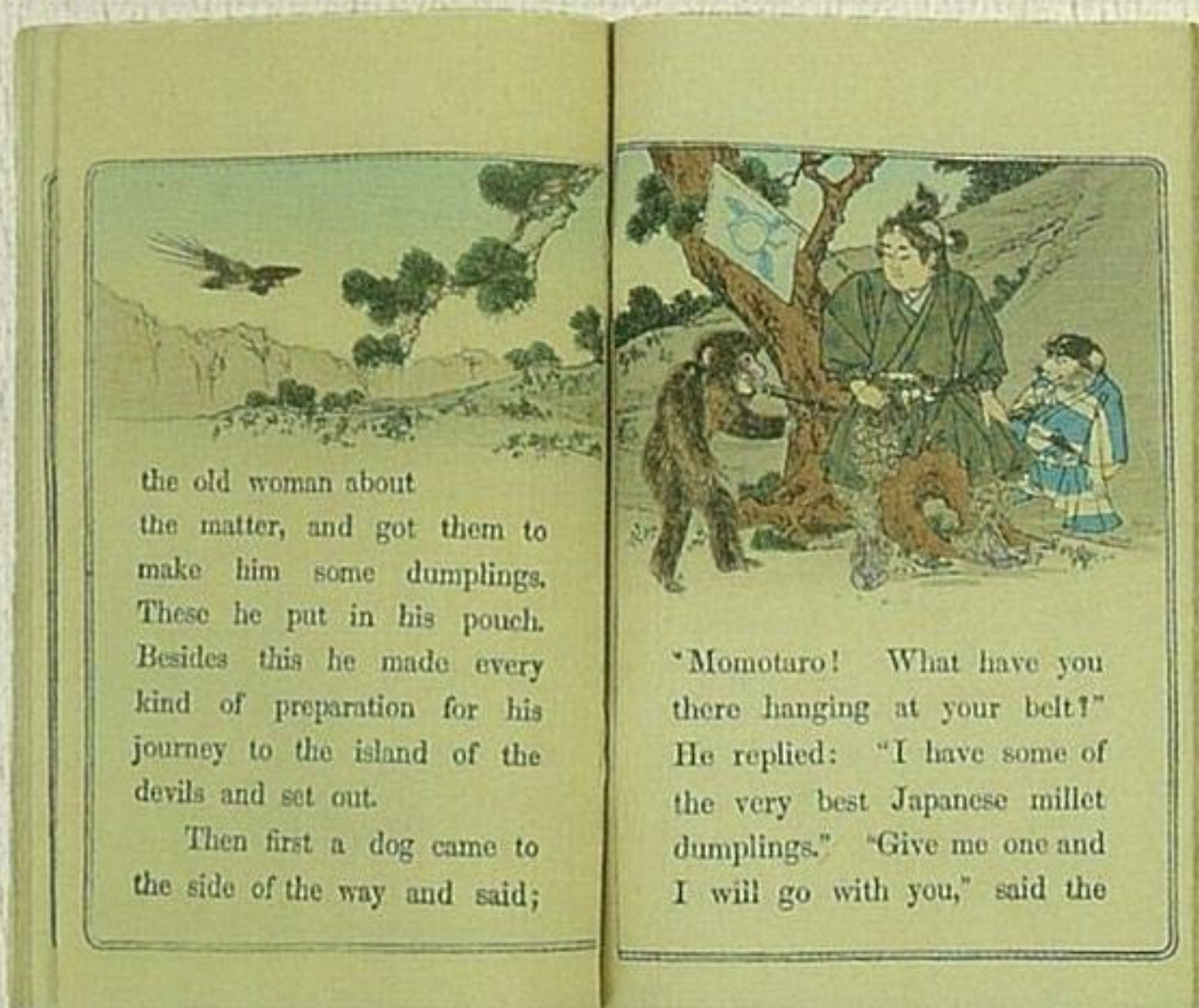
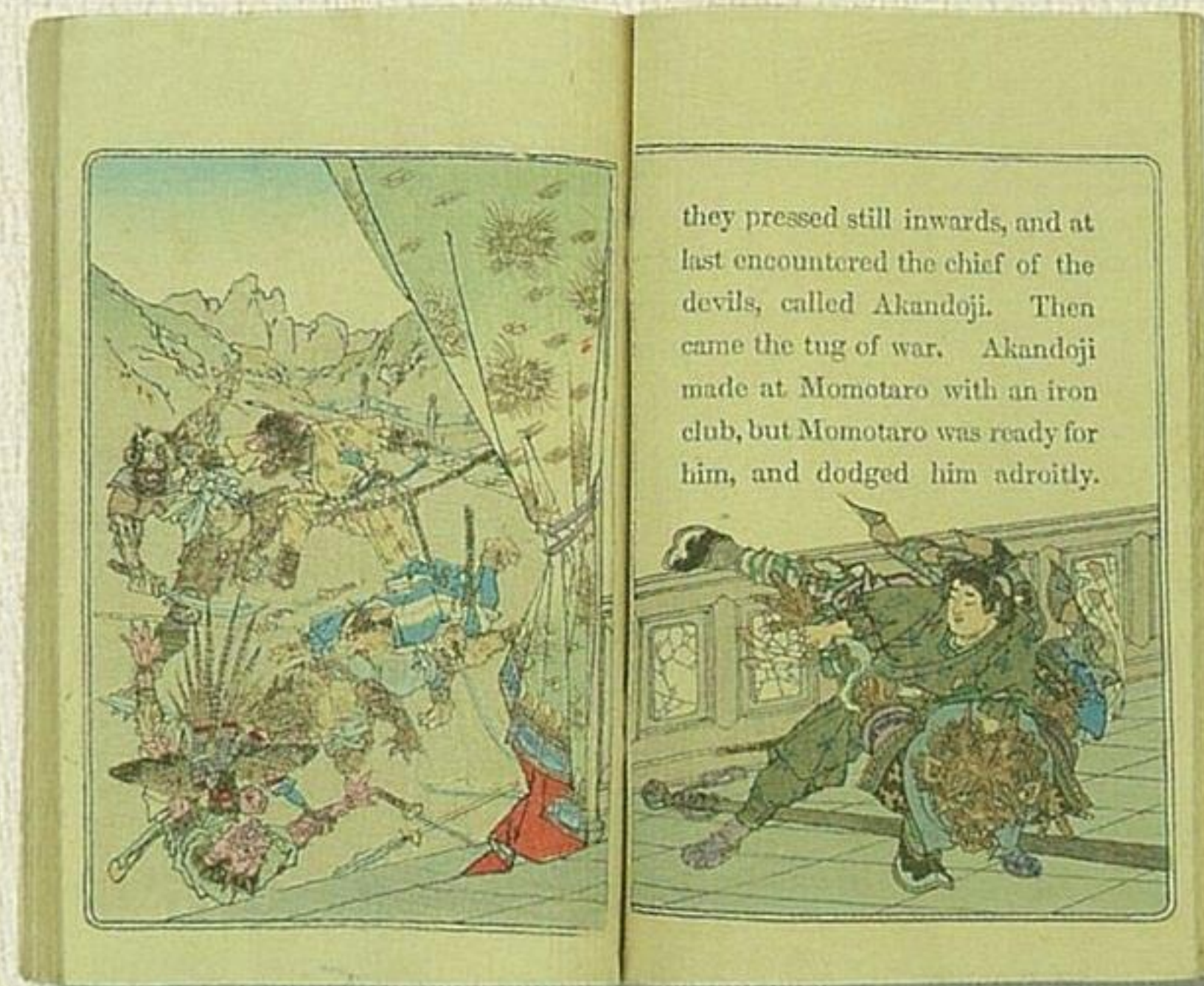
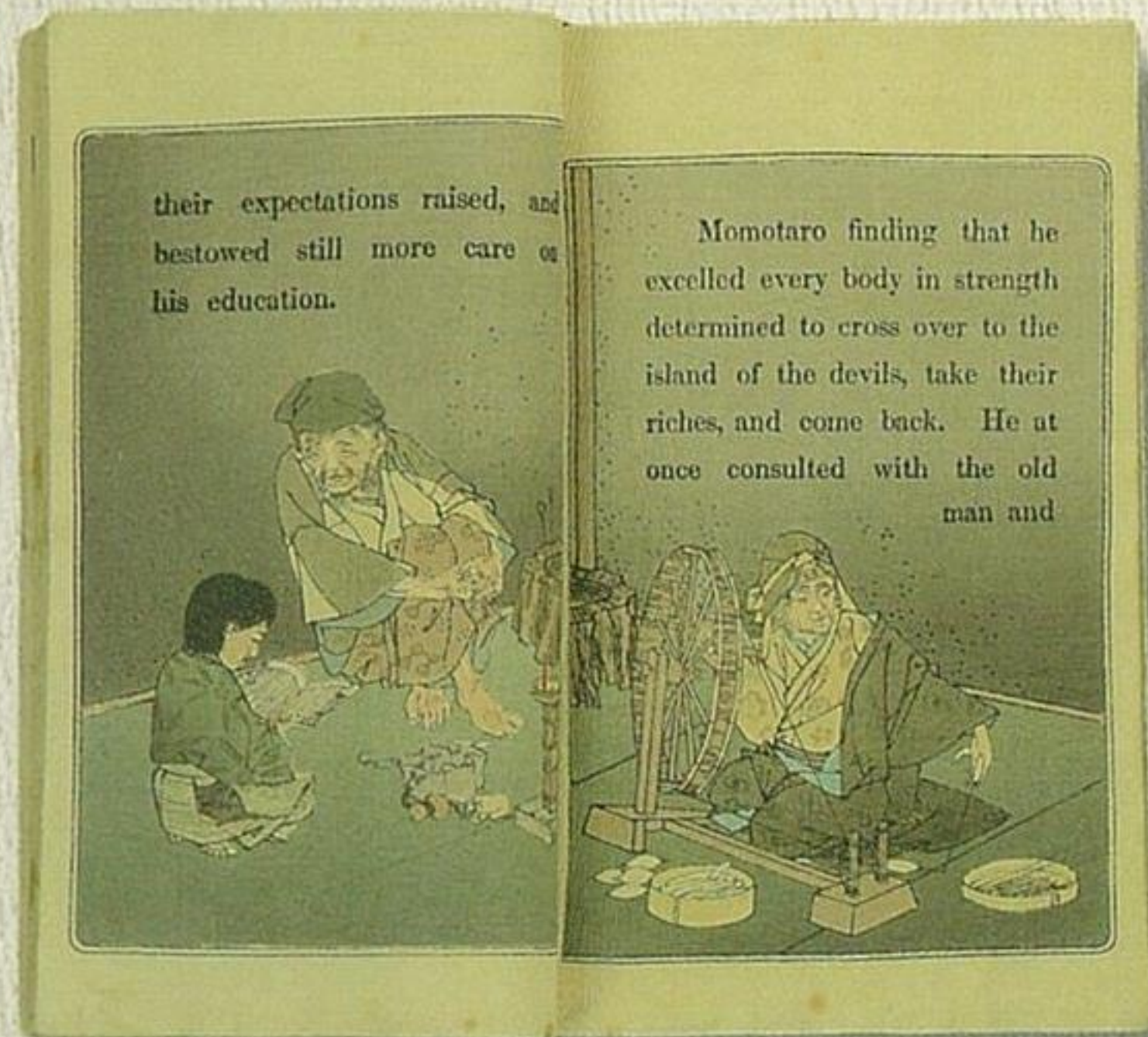


「日本昔噺」シリーズの記念すべき第1巻。初版は明治18年(1885)に出版された。「桃太郎」は著名な昔話で、明治中期以降の多くの教科書で見られる。特に、日本が中国との戦争に突入する頃になると、軍国主義の思想を背景に、海を渡り敵を征圧する勇猛な兵士の象徴として、桃太郎は教育の現場で大きな影響力を持つようになった。内容に修正を加えながらも、現在まで語り継がれている代表的な昔話である。

ちりめん本「桃太郎」には、鬼ヶ島城門前の絵を表紙とする別本がある。当館収蔵本は表紙のみ異なり、内容に相違はなく、共に再版本である。



最終頁

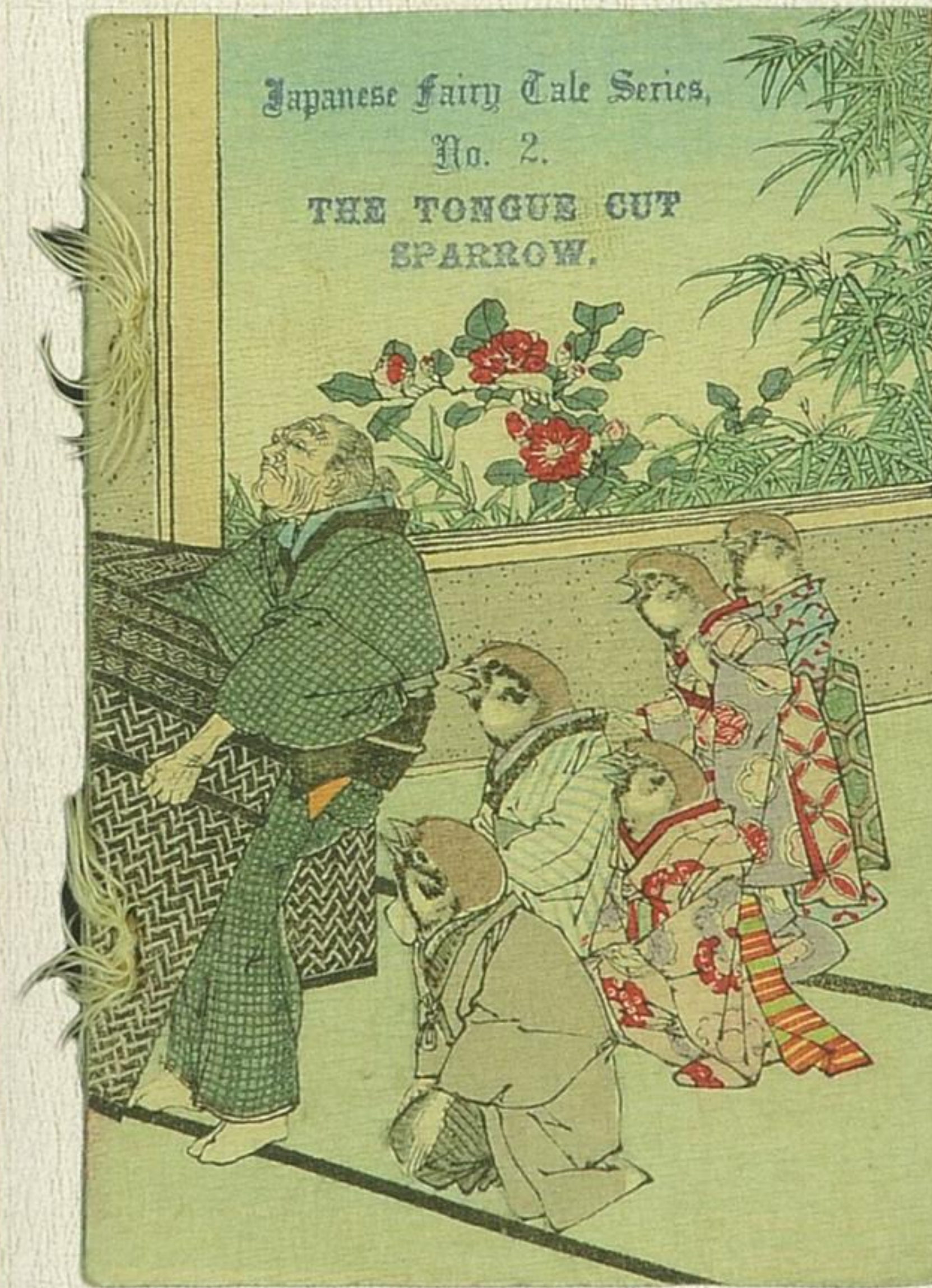


桃太郎(別本)表紙

JAPANESE FAIRY TALE SERIES

No.2 THE TONGUE CUT SPARROW 舌切雀

David Thomson / 訳 小林永濯 / 絵 明治18年(1885) 15.4×10.4cm



室町時代から江戸初期にかけて成立した「桃太郎」「勝々山」「猿蟹合戦」「舌切雀」「花咲爺」は五大お伽噺として人びとに親しまれた。また「日本昔噺」の翻訳者の一人であるチェンバレンは、『日本事物誌』の中で、「日本人は多くのお伽噺を持っている。(中略)もっとも知られているものは、浦島、桃太郎、猿蟹合戦、舌切雀、鼠の嫁入、花咲爺、かちかち山、文福茶釜である」と述べている。

奥付を見る限り初版の記載しかないが、紙の表面の粗さ、綴じ紐が整っておらず、また当館は再版本も収蔵するが、綴じ目部分に「再三雀ノ一」という記載があり、いずれも版を確定できない。

